

■■■ 新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。 ■■■
あたらしい年、たくさん福をうけとってください。

2009年は、子ども支援の拠点としてMoi（多文化子ども共育センター）を多くの方々の協力を得て開設するなどKFCにとって実りある年でした。2010年もさらなる飛躍ができるよう理事会、スタッフ、ボランティアが連携をとってさらに活動を進められること願っています。

今年は、KFCの活動をはじめる契機となった阪神・淡路大震災から15年になります。震災の時に生まれた子どもが今年高校生になるなど月日の流れを強く感じますが、震災時の「助けあいの心」がいまのKFCをつくってくれたという感謝をいま一度ここにきざみ新しい年に望めればと思います。（理事長 金宣吉）

セヘ ポク マーニ バドゥシプシヨ。新年明けましておめでとうございます。

あの未曾有の震災から、あっという間に15年目を迎えようとしています。

又、日本が韓国を併合してから、100年の節目でもあります。一体、何が変わり何が変わらなかったのか？ふと自問してしまいます。足元から熱いエネルギーを感じながら、人を大切に出来る、何か新しい一歩を踏み出したいものです。（副理事長 李 圭 燮）

あけましておめでとうございます。

皆様には新しい年を迎えて今年こそ良い年にしたいと希望にあふれた年をお迎えのことと存じます。

昨年は底知らずの経済の低迷で、どん底の生活を味わわせられ、今年もまだどうなることかと危惧される状況ですが、私たちが頑張ればよい方向に向う可能性を感じます。

昨年の政権交代をさらに進め「幸せ」が感じられる世の中を作るために大いに頑張りましょう。

（副理事長 中村 通宏）

皆様、新年あけましておめでとうございます。私にとっては神戸に帰ってくる転機となった震災から15年が経ちます。15年前の頃は、外国にルーツをもつ子どもの教育問題について、締め切り間際の卒業論文を書いていた私ですが、彼らをとりまく状況について、あれから変わったこと、変わっていないことを思うにつけ、これからもしぶとく「愚直に」関わり続けることへの思いを新たにします。皆さん、2月のKOBEカンタービレ・コンサートでお会いしましょう！（理事 野崎 志帆）

今年は震災から数えて15年、あの頃生まれた子どもたちが高校に入学する時代になりました。神戸は震災で多くのものを失いましたが、この15年の間に得たものも少なからずあったと思います。暗い話題も多いですが、国籍を越えた新たな社会に向けた模索も確実に積み重ねられてきていると感じます。どんな状況であっても、希望を持って前向きに生きていけるような人間でありたいと思います（今年もよろしくお願申し上げます）。（理事 樋口 大祐）

ガオーツ！賀正ツ！

鉄人28号が渾身の力で突き出す右の拳（こぶし）を見て、震災復興15年のこれまでの思いと、これから先への思いが重なります。

本年も、拳（ゲンコツ）を恐れず、拳（グー）な地域を目指して、ダダダダ、ダーンと元気に進

みましょう。

(理事 森崎 清登)

震災から15年がたちますが、復興がままならないまま昨年の金融危機によりなお一層の景気落ち込みにより、外国人労働者の切り捨てが行われ、外国人の人権が脅かされる事態が昨年から顕著になっています。今年ますますこのような事態が増えることが懸念されます。定住外国人の権利擁護のためにも、KFCの活動が重要になってくる年と思います。今年もよろしくお祈りします。

(理事 吉井 正明)

◆草原のお正月について

現在、子どもの学習支援をお手伝いさせていただいています王です。私は内モンゴル出身の漢族で、内モンゴルのモンゴル系住民のお正月について紹介させていただきます。

モンゴルのお正月は旧正月で「チャガンサル（白い月）」と呼ばれます（2010年は2月14日）。モンゴル族の主な行事であるお正月の支度は冬至の頃から始められ、青いハダク（布）をかけた牛肉や羊肉を親戚や友達に贈ります。大晦日の夕方、爆竹の音が鳴りひびき、家族が肉と酒、正月の料理を並べた食卓を囲み、正面に祖先の写真を供えます。これは祖先との団らんを意味します。そして、家族そろってのお祝いの宴が始まり、子どもたちが親や年輩者にハダクと酒を捧げ、楽しく話しながら飲んだり、食べたり、歌ったり、踊ったりして新年を迎えます。厳しい冬を乗り越えて春を迎える事を喜び、一年間の幸せを祈るのです。

日本の大晦日にあたる日は「ビトゥーン」とよばれ「閉じる」の意味があります。大晦日は家族が集まりお肉、肉まんなどお腹いっぱい食べます。小麦粉の皮で肉を閉じたポーズを食べるのも、幸せを包み込むという縁起かつぎからです。この大行事に備えお正月の一ヶ月前から、ポーズ責めの日々がはじまります。チャガンサルの重要な料理ポーズ（モンゴル蒸し餃子）は皮から作って肉を包み、外で凍らせていきます。一家庭で千個くらいを家族総出で作り準備します。その他、ごちそうの準備、買い物、大掃除…一年で一番大切な日を迎える準備は続きます。

お正月の朝、日の出前に起き、みんな、モンゴル服を身にまとい、それぞれの幸運の方向に歩き、功德の方向から戻ります。この儀式の後、大地にミルクを捧げ、日の出とともに家族と挨拶を交わします。年輩者にひざまずき、礼拝しながら酒を捧げて、年輩者の健康と幸福をお祝いし、年輩者も茶碗一杯にミルクをつぎ、子どもたちが真っ白なミルクのごとく心が純潔で、願い事がかなうように祈ります。ブフリ（羊の丸茹で）はチャガンサルには欠かせないモンゴルらしい料理です。羊を丸ごと茹でて食べます。頭にバターをつけて最初に全員バターを天に上げてから一口食べた後お肉にナイフを入れて食べます。真っ白なアイラグ（馬乳酒）も「白い月」にはかかせません。この時期に出されるのは秋から保存しておいたものです。酒といってもアルコール度数は1～2%ほどでお水の変わりに飲んでいきます。元日から五日にかけて人々は馬や車、オートバイに乗って、お菓子、お酒とハダクをもって年始回りにでかけます。

自分の家に挨拶に来た訪問客をもてなすのも大切な仕事です。アツアツのポーズは最初に3個以上自分の皿に取るのが礼儀、アルコール度数が強いアルヒも3杯飲むのが礼儀、その他サラダに乳製品、餡、お菓子などなど！とにかく薦められます。これが一日に何軒もするあいさつ回りの一軒一軒で繰り広げられるのです！家の中は一年で一番大切な日を祝う、それは賑やかで幸せに満ちた空間ができあがります。正月のお客さまには、上等な酒や料理のほか、喜びを持ち帰るという意味で、小さな包みのお茶やお菓子を贈る習慣があります。チャガンサルが終わるとモンゴルには春が訪れ、季節の挨拶も「良い冬を」から「良い春を迎えていますか」に変わります。（王 開）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語ボランティア養成講座を受け終えてー 10月のKFC研修会からー

11月14日の研修会は識字教室、ひまわり会の桂光子先生をお招きしました。先生は最初からスライドを用いてお話をなさいました。それに先立ち、ひまわり会の展示作品のプリントや「ひまわりだより」という通信紙を配って下さいました。そこには所属している生徒達の作品、作文、行事などが書かれていました。目を通しながら、お話を伺っていますと、先生のお話が現実感をもってきました。

このひまわり会の発足には阪神大震災が引き金となったそうです。当時、字が読めなくて孤立した人が多かったのです。今ひまわり会のスタッフは教職経験者の桂先生のような方ばかりでなく、人生経験豊かで多くを与えられるような方、識字教室に通ってくる生徒達にとっては孫のような年令の若い大学生などバラエティに富んでいます。

恐る恐る識字教室の戸を開けてくる人は、字が書けるようになる以前に自分を表現したい、話したいという気持ちが強いのです。スタッフはそういう気持ちを察し、生徒のしゃべることを書き留めます。聞き書きというそうです。言いたいことを誰もが持っているので、それを先ず出させます。文字は道具です。

生徒はだんだん書くことを学んでいきます。最初は言ったことを書いてもらって「それが残る」と喜んでいた人も自分で書きたいと勉強し始めます。自分に自信がついてきて、話す、次に書くことを目指す共通の目的を持つ人と親しくなり、生徒同士会うのを楽しみにするようになります。

聞き書きをしているスタッフの人達は、誰にも自分を発信したい気持ちがあることに気付き、字を書く能力を身につけてもらうと共に、表現してもらうことも使命であると思っていると桂先生は結ばれました。

私達はそれが今日の演題の「識字教室の活動から見えてきたもの」だと納得しました。（気賀倭文子）

◆現在の学習状況

現在、KFCの日本語プロジェクトではマンツーマンレッスンとグループレッスンを行っており、ボランティア支援者32名の方が携わっています。

マンツーマンレッスンは、支援可能な時間に一人の学習者を担当してもらい、学習を進めています（21組・学習者22名）。

グループレッスンはシューズプラザ4Fの会議室で19時から20時半まで、Aグループ（月・木/9名）、Bグループ（金/6名）、Cグループ（火/5名）の3グループが、事務所スペースで、火曜日の10時半から（初級/5名）と12時半から（中上級/3名）の2グループが行われています。

日曜日は学習時間にコーディネーターがおり登録支援者と学習者を組み合わせています（10組・学習者10名）。

グループレッスンはどなたでも参加してもらえようにはしていますが、マンツーマンレッスンは定住者を対象にしています。

KFCの学習者は国籍で見るとベトナム人が21名で全学習者のほぼ半数を占め、次に中国人10名が続きます。他の国籍は1、2名で14ヶ国にわたっています。

定住者対象ということから、学習者は日本人や在日外国人の配偶者が一番多く、家族の呼び寄せで来られた方や、最近では難民で20年ほど前に来られて学び直すという方や子育てが一段落した30代半ばから50代の女性も見受けられるようになりました。

ことばがわかるようになると外国で感じる疎外感もぐっと少なくなるでしょう。そうなるまでの努力と学習時間が苦痛ですが。支援者側は予想以上に忍耐力が必要です。一回教えただけで覚えて使いこなしてくれる方は限りなくゼロに近いです。うまく教えてないような気持ちになるとつらいで

すね。

私たち支援者は学習しようという気持ちに応えたい、上手になってくれることにとっても喜びを感じています。そして色々な話ができることを楽しみにしています。

出会えばお互いの距離が縮まります。道でふと見かけたときにその人が住んでいるんだということが実感でき、テレビや新聞でも相手国の報道に興味をわく、会えなくなった方に時々思いを馳せる、そんな方が増えれば生まれ故郷の違う人を思いやり、世界平和を願う気持ちも育まれるというものです。学習する人！支援する人！バンザーイ（奥 優伽子）

◆日本のお正月の紹介

師走の第二日曜日、“日本のお正月を紹介しよう！”という発案で、支援者有志がおせち料理を作り、学習者をお客様としてパーティーを行いました。参加者は34名（内、支援者10名）、国籍は、EU、アジア、オセアニア等10ヶ国を超え、ことばも、みんなの共通語の日本語であったり、英語であったりで賑やかな会になりました。初めに、お正月行事の起こりやいわれについて説明があり、その後、お重につめられたデパ地下も顔負けの20種類ものお料理に舌鼓をうちました。どれもおいしいと評判でした。黒豆、金柑、くりきんとんなど、甘いものがなじみやすいようで人気でした。おぞうにも、関東風、関西風と二種類ふるまわれましたが、お餅はお箸にくっついて食べにくくて、ちょっと苦手だったようです。喜んで参加された方は、やはり日本の伝統文化に興味のある方たちで、特に日本に来て日の浅い人、日本語の学習をはじめられた方たちでした。自分でも作ってみたいと、作り方を聞いたりメモを取ったりされている人もいました。残ったお料理をおみやげに、3時前にお開きとなりました。支援者達も一足早いお正月を味わい、共通の話題でおしゃべりをし、楽しいひとときを過ごしました。おせちの持つ本来の意味があらわす通りに、新しい年がみんなにとって健康で幸せに満ちた一年でありますように。（ニュース係 谷先 晴代）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆KFCクリスマス会

2009年12月22日（火）に、多文化子ども共育センターMOIで子どもたちと支援者とクリスマス会を行いました。現在学習支援では月曜日から金曜日までたくさん子どもたちが学習していますが、一度に集まる機会はあまりありません。今回はそんな子どもたちが集まり、短い時間ですが一緒に過ごすことができました。普段の学習の中では見ることのできない子どもたちの表情をたくさん見ることができました。

今年のクリスマス会では、まずキーホルダーづくりをしました。プラ板という板にマジックで絵を描いて、それをトースターで温めると4分の1程度の大きさに縮みます。事前にプラ板にパンチで穴を開けておき、そこにひもを通せばオリジナルのキーホルダーができあがるというものです。子どもたちは自分自身で絵を描いたり、マンガのキャラクターを描いたりしていました。男の子の中には絵を描くのが好きな子どもが多く、一生懸命に絵を描いている姿が印象的でした。またイラストだけでなく、来年の目標を書いている子どももいました。

そのあとはホットケーキを作りました。クリームやチョコレート、そしてフルーツなどを飾り付け、子どもたちは自分で作ったホットケーキを食べました。

最後に子どもたちひとりひとりにプレゼントをわたし、クリスマス会は終わりました。

今年のクリスマス会は支援者のみなさんにいろいろと助けていただきました。準備の段階から小田さんや谷口さん、そして当日は本田さん、安田さんにもたくさんお手伝いいただきました。黒瀬さんには、子どもたちの写真をたくさん撮っていただきました。スタッフの王さんには子どもたちひとりひとりのプレゼントを準備してもらい、アンさんには飾り付けをしてもらいました。

当日は慌ただしくご迷惑をおかけしましたが、みなさんのおかげで何とか無事にクリスマス会を

行うことができました。大変ありがとうございました。また次回、このような機会が作れたらと思います。（矢根 寛子）

◆学習支援に参加して

私は、昨年4月からKFCで学習支援に参加しています。参加したきっかけは、大学のゼミで外国人児童の教育問題について取り上げたことでした。その時に外国人児童の支援活動をしている団体があることを知り、自分もそういった活動に関われたら、と考えたのです。当初は、勉強を教えた経験もなく、自分に教えられるのか不安に思うこともありましたが、しかし始めてみると、自分の説明で子どもたちが「わかった！」と笑顔になるのが嬉しく、だんだん支援が楽しくなってきました。

現在は小学校6年生の男の子と中学校1年生の女の子を担当しています。昨年何人かの子どもたちを担当しましたが、子どもによって背景や抱えている問題は本当に様々だということを実感しています。また、支援を続けていて、会話の上手さだけでは計れない問題が大きいことに気付きました。会話は日本人と変わらないくらい流暢にできても、問題になると、途端にわからなくなってしまふことが多いのです。計算はできても文章問題は苦手だったり、読解問題は問題をあまり読まずに解こうとしたりします。「学校の授業を聞いてもよくわからない。」とか、問題を見てもすぐに「できない。」とあきらめてしまふこともありましたが。

KFCでの学習支援は、週に1～2回で、時間も長くありません。部活動や学校の宿題があつて疲れていたりすると、やる気がない時もあります。その限られた時間で何ができるかということも考えています。子どもは、学校の授業がわからなかったり、テストができなかったりすると、「できない」という部分ばかりを見てしまいがちです。そこで私は、まずは勉強に対する自信や楽しさを感じてほしいと考えて支援に取り組んでいます。それまで、わからないとあきらめてしまつていた子が、やる気を出して勉強に取り組んでくれると一番嬉しいです。KFCから帰る時には、なにか達成感を得て帰ってくれたらいいなと思っています。

勉強を教える以外に、好きなことや学校の話、将来の目標などを楽しそうに話してくれることもあります。そういう話を聞くと、子どもたちにとってKFCが楽しく勉強でき、何でも話すことのできる居場所であればいいなと思います。そして、自分の活動が少しでも子どもたちの目標の手伝いになっていたらいいなと思います。

私は現在、卒業論文で外国人児童生徒に対する母語教育の問題について取り組んでいます。支援活動のなかで、日本語はこういった教室で習っているけれど、母語はどうしているのだろう、と疑問に思ったのがきっかけでした。また、保護者の方とお話した時に、子どもがベトナム語を話せないからお互いに壁があるという家庭もあることを知りました。わからない日本語で授業を受けている子どもたちを見ると、日本語教育と母語教育の兼ね合いは大変難しいと思います。しかし、日本語と母語の両方ともできないという状態にならないためにも、何らかの形での母語教育支援も必要であると考えています。KFCでの活動は、外国人児童の教育にさらに興味を持つきっかけにもなり、自分自身の視野を広げるきっかけにもなりました。

これからも、子どもひとりひとりのことを考えるとともに、広い視野を持って支援に関わっていきたいと思っています。（土生 真由美）

■■■ 八ナの会 ■■■

◆淡路温泉旅行～またまた歌って、踊って

KFCの皆さま、アンニョンハシムニカ？

デイサービスセンターハナの会にビッグニュースがあります！

11月27日、28日（1泊2日）、ハルモニ21名、スタッフ12名の33名が淡路温泉旅行に行ってきた。

ずっと前から、まだ足の力が残っている時に、友達と一緒に旅行に行きたいという希望の声が多くありました。実際に今年は、ご病気のために私達のもとを去っていった方も多くおられた事で、一日でも早くお元気な時に良い思い出を作ってあげたいという心情から、旅行計画を立てることになりました。

旅行当日、ワクワク気分で眠れなかった顔でハナの会に集まり、来る日が違うためにいつもは会えなかった友達と近況を伝え合い、喜ばれる姿もありました。

大きいバスに全員で乗り、淡路に向かって出発。理事長のあいさつで始まったバス旅行。大きな声で民謡を歌いながら、久しぶりに見る海、明石海峡大橋を渡りながら、「わ〜」という感嘆詞が流れてきました。

海月館に到着。それぞれに指定された部屋に分かれて、入浴準備をした後、温泉浴場に集合。緊張の連続だった入浴時間は、今考えても冷や汗が流れるほど。入浴が終わった後、宴会場に集合。美味しい夕食をとりながら、お酒を楽しまれる方々もかなり沢山いらっしゃいました。食事が終わるや、カラオケの始まり。歌手が次々と登場。食べて、飲んで、歌って、踊って・・・若いスタッフが、ハルモニの元気な姿にびっくり！

各自、部屋に分かれて就寝時間。次の朝、疲れた姿もなく早くから化粧をされるハルモニもいらっしゃいました。

旅館から出て、公園で湖に浮かんだボートを見ながら昼食。散歩の後に出発。明石大橋の休憩所で休息をとった後、ハナの会へ出発。

旅行から帰ってきたハルモニを迎えに来た息子さんを見て、笑顔で手をつないで帰るハルモニの姿は、とても美しく印象的でした。

大きな事故もなく、無事に温泉旅行終了。

最後に、困難な要件の中で、機会を作って下さった理事長を始めとして、色々助けて下さった理事の皆さま。平穩に旅行ができるようにバスを用意して下さい下さった金尚司さま。悲壮な覚悟で、でも優しい気持ちで快く参加して下さい下さったハナの会の職員、ボランティアの皆さんに、心から感謝いたします。お陰さまで、ハルモニが永遠に忘れられない思い出を作ってあげることができました。これからも、ハナの会に多くの激励をお願いいたします。どうもありがとうございました。（朱良枝）

◆ X'mas会&忘年会

12月14日、15日の二日間、ハナの会では、恒例のX'mas会&忘年会を行いました。

今年は行事が続いたために十分な練習が出来ませんでした。ハルモニたちは昨年続き《ハンドベル》で『アリラン』に挑戦しました。スタッフの手の合図に合わせて、真剣な表情で振るオモニたちのベルは、見事に『アリラン』を奏でていました。さすが二年目！余裕を見せるハルモニもいらっしゃいました。ご自分の担当の音をしっかりと出して、楽しんで演奏されているようでした。来年は何の曲にしましょうか…。

スタッフの出し物は、厨房のスンファさんの舞踊、そしてクリスマスソングにハンドベル演奏『聖者の行進』そして、プチェチュム（扇の舞）を披露しました。各々自前のチマチョゴリを身にまとい、チョットリ（冠）を付け、美しい扇を両手に決して上手ではありませんが、波や山、花などを表現する動作に挑戦してみました。ハルモニたちは大いに笑い、拍手を送ってくれました。

次はハルモニたちが歌と踊りで大いに盛り上がり、クリスマス会のクライマックスを迎えました。そう、サンタの登場です！両手に持ったベルを振りながら、昨年にも増して軽快なダンスを見

せてくれました。サンタさんも練習したのでしょうか？（さて、サンタは誰？？？）肩に担いだ袋からプレゼントを取り出し、ハルモニたち一人一人に手渡し、来年も元気で会いましょうと約束し、フィンランド？に帰って行きました。午前にハルモニたちが楽しくデコレーションしたケーキとコーヒーでおやつを楽しみ、にぎやかなX'mas会&忘年会は終わっていきました。また来年もこんな楽しい一日が過ごせますように・・・（朱良枝）

■■■ ハナ介護サービス■■■

一転して、何もかも初めて取り込むことばかりで提供責任者として、役割も分からず長年訪問介護に携って来たものの、利用者様のお気持ちや言葉の壁・文化の違いもあって何もかも戸惑う毎日でした。

通院介助をさせて頂きながら気がつくのは、利用者が常に体調不良による気弱さからくる不安を抱えて生活をされておられることです。デイサービスに行かれることによって、気もまぎれ喜ばれておられる様子をお見受けして、必要性を感じます。時々デイサービスでお手伝いをさせて頂くこともあり、韓国民謡・韓国踊りとても楽しそうに、元気よく踊られます。先日一泊旅行に参加した時、ある利用者様は一睡もされませんでした。利用者様のニーズに応える難しさを学びました。振り返って見て、体調の悪さがそうさせているのでは…とご本人の方がもっとしんどい思いをされておられるのでは…とってしまいました。

まだまだ駆け出しの私ではありますが、利用者様のニーズに寄り添いながら、がんばりますので宜しくお願い致します。（松嶋 美見）

■■■ 今後の予定■■■

■研修会

2月6日（土）13:30～15:00

「保護者の声から支援を考える」

於 デイサービスセンターハナの会

■地域の共生を考えるワークショップ

2月27日（土）10:00～17:00

於 多文化子ども共育センター(moi)

■KOBECarterビルコンサート

2月7日（日）13:30～

■ハナの会新年会

1月30日（土）